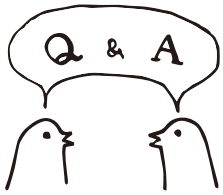
ぺた語義

Vol. 73

CONTENTS

【コラム】対面の価値を高める授業を目指して… 高木 正則
【解説】初等教育におけるタブレット端末活用の実践―慶應義塾幼稚舎　小学校 1 年生での事例― … 鈴木 二正
【解説】思考力・判断力・表現力を測るには?… 久野 靖

COLUMN



基 般

対面の価値を高める授業を目指して

筆者は 2013 年度から数学のリメディアル科目を担当している．この科目の履修対象者は入学時に CBT（Computer Based Testing）環境で実施されるプレイスメント・テストによって選抜されるが，高校までの数学の履修状況は多様であった．そのため，授業時間の制約の中で，黒板への板書やプレゼン資料のプロジェクタへの投影などをして，全員に説明する一斉型授業は不向きと考え，e ラーニング教材を活用したさまざまな形式の授業を行っている．

担当 1 年目は一人ひとりの理解状況に応じた学習指導を重視するため，授業中に e ラーニング教材で自学自習させ，分からない個所を随時質問してもらうようにした．その結果，期末試験の平均点はプレイスメント・テストの平均点よりも 30 点以上向上したものの，授業中に質問する学生は少なく，ディスプレイを見て黙々と学習する学生が目立った．この光景を目のあたりにしたとき，インターネット経由で自由に授業を受けられる MOOC（Massive Open Online Course）が注目を集めている昨今において，教室という同じ空間に集合して授業することの意義や価値を再考する必要があることを痛感した．

2 年目以降はこれまで授業中に行っていた自学自習を予習にし，授業中は予習の確認テストや発展問題を使ったグループ学習，学習者が問題を作って学ぶ作問学習，対面の個別面談などを行うことにし，いわゆる反転学習に近い形式で授業を行うようにした．その結果，1 年目と変わり，学生同士が互いに説明して教え合う機会が増え，教員や TA（Teaching Assistant）・SA（Student Assistant）に質問する機会も増えた．また，昨年（2016 年）からは予習時の学習効果を向上させるために，e ラーニング教材で学生が躓きやすい内容を分析し，5 分程度で補足説明をする動画を LMS（Learning Management System）上に公開するようにした．これにあわせ，授業時間の中で，1 週間の学習記録（学習日時，学習単元，学習内容，学習方法など）や確認テストの結果を基に，専用シートで振り返りをさせる時間を設け，教員が個別にフィードバックするなど，より主体的・対話的で深い学びを促せる工夫を試みている．

一方，高大接続改革の実現を目指して文部科学省で開かれた高大接続システム改革会議からは，知識・技能だけでなく，「思考力・判断力・表現力」を評価する「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の実施が公表され，これらの能力を評価する方法について科目ごとに検討が始まっている．今後はこれらの動向も踏まえ，大学で求められる授業の在り方を考えながら，対面型授業の本質的な良さを引き出せる授業について検討を続けていきたい．

高木正則（岩手県立大学）

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno